

協会だより

ひろは

2025
FEBRUARY
vol.45

レポート

第31回 群馬県老人保健施設大会

第35回 全国大会 - 岐阜 - 報告

「みてみよう! みんなの作品」
施設の「ここに注目!!」コーナー
これ知ってました?
介護職員の指導者としての心得

全老健ではROKENくんの
47都道府県バージョンとなる
「ご当地ROKENくん」を制作
しました。群馬県バージョンは
「だるま」と「焼きまんじゅう」が
モチーフとなっています。
「皆さん、よろしくね!!」



GUNMA

榛東村 創造の森キャンプ場

「新年を迎えてのご挨拶」

公益社団法人群馬県老人保健施設協会 理事長

服部 徳昭

2025年の新春を迎えて1カ月が過ぎました。昨年は群馬県老人保健施設協会並びに会員施設は本当に多くの皆様にお世話になりました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

さて、2025年は団塊の世代が後期高齢者になり、社会保障制度も正念場を迎えます。介護分野でもケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム（LIFE）が進みます。それは、介護サービスを運営する事業所（老健、デイケア等）が介護のデータをたくさん国に送ってフィードバックを受けて、そしてより良い介護にしていける事業です。具体的には栄養・認知症・口腔機能・リハビリのデータを送付して科学的エビデンスとしてフィードバックして評価し、介護加算に反映される仕組みとなります。さらにDX化に収斂されてより良いものになるといえます。

また、これからの地域包括ケアシステムにおいては福祉分野で地域包括支援センターの役割が益々大きくなります。医療分野の地域医療構想では医療と介護のさらなる連携が求められ、そこでは市町村の果たす役割が更に重要となります。地域での医療・介護・福祉の連携推進に大きな期待が膨らんでいます。これらのことは住民にとってのベネフィット（幸せ）につながることが目的です。

今年の12月にはマイナ保険証の整備が整います。医療機関でのマイナ保険証の利用率が急速に伸びてきています。マイナ保険証は慣れしてしまうと大変便利です。マイナ保険証を落とした場合と従来の健康保険証を落とした場合、マイナ保険証が悪用されるリスクは大変低いです。これに対し従来の健康保険証は転売され、身分証として使われる危険があります。万が一海外で転売されると大変です。マイナ保険証はクレジットカードを落とした時と同じように届け出ることで問題となるリスクは低いのです。先行する国々ではスマホにマイナ保険証や運転免許証も入って便利で、日本でも可能になります。

国（デジタル庁）が主導して開発を進めているPMH（パブリックメディカルハブ）は、情報連携システムで市町村における医療費助成、予防接種、母子保健などの分野で整備が進んでいます。これもマイナナンバーカードを活用して住民サービスと行政の効率化を目指しています。

昨今、世界も日本国内の情勢も目まぐるしく変わり、予測がつきにくいというのが実感です。一方、日本の医療・介護・福祉の連携は制度として段々良くなっていきます。スピード感と達成度は都会と地方では差があるのは事実です。地方でも地域性があります。目標を定めて連携を進めていくことが大事です。

何のために努力しているのか。皆、「幸せ」になるためです。情報共有と連携、そこから生み出される智慧物語は人々の地域におけるアイデンティティを創り上げる原動力になると思います。その為に群馬県老人保健施設協会の会員施設はそれぞれの地域の皆様が「安心だ」「良かった」と実感していただける多職種連携の礎となることを目指しております。そのためには現場の職員も人生の目的であるところの「幸せ」を感じられることだと思います。その為の働き方改革だと思っています。今年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

第31回群馬県老人保健施設大会

～ 会場開催となった開会式・表彰式・特別講演の模様を同時配信!! ～

大会テーマ 「いかに生き いかに旅立つか
～人生の最期までを彩るリハビリテーション～」

■令和6年11月9日(土)～11月30日(土)の22日間

手と手を取って



介護老人保健施設
リハビリホーム喜望峰
施設長 井野 教子

第31回施設大会が昨年11月に開催されました。高玉先生、服部先生、事務局、運営委員会に大変お世話になり有難うございました。46題の貴重な演題が動画撮影という作業が加わったにもかかわらず立派に発表され、有意義な時間を過ごすことができました。慢性期維持期の医療・介護について利用者を中心に実践している老健の意義を再認識しました。各々の施設が様々な工夫を凝らして利用者に喜んでもらえるように対応していることが分かりました。

自然と感動をテーマに高橋京子先生のご講演は心に響き、講義室の後ろの黒い模造紙に高橋先生が置かれた一つとして同じものがない赤や緑のきれいな色と形のたくさんある落ち葉が、「二人一人が大切な存在であること」を静かに語っていました。

群馬県下78カ所の老健施設が、職員不足・物価上昇・施設の老朽化・在宅復帰問題・ベッド回転率の問題などいろいろな課題がある中で、お互いに手と手を取って助け合いながら未来永劫住民の皆様に愛されていることを願っています。

令和6年11月9日(土)開催の
開会式・施設職員表彰式・特別講演
の模様をご紹介します。

開会式・施設職員表彰式・特別講演は、群馬県生涯学習センター(前橋市)で、13時45分から開催しました。大きな会場が確保できず、施設職員表彰に選ばれた35施設、120名の皆様の中から、各施設1名様に出席いただき、開催しました。

【開会式】



服部 徳昭 理事長 挨拶



井野 教子 大会長 挨拶



高玉 真光 先生 挨拶

陽光苑の高玉先生も会場にお越しくださいました。突然のご指名にもかかわらず、ご挨拶をしてくださいました。ありがとうございました。



【施設職員表彰式】

服部理事長から代表者に賞状と記念品が贈呈されました。会場にお越しいただいていない被表彰者の皆様のお名前も、お一人お一人読み上げさせていたいただきました。

【特別講演】

講師は、茨川市出身の高橋京子先生にお越しくださいました。高橋先生は、ウレシバモシリ(保育と自然をつなぐ研究会)を主宰されております。

ウレシバモシリはアイヌ語で、「ウレシバ」は「互いに育ち合う」という意味、「モシリ」は「大地」という意味だそうです。ご講演で高橋先生は、「私としては命の終わりで、生き生きとした感性の世界を求めて、介護の世界でも子どもの時代だけではなく、本当に人生の終わりで生き生きと、わくわく、ドキドキ、どのくらい心を動かして生を全うできるかということを考えて、私もドキドキしながらこの場を頂戴させていたただいております。」と話されておりました。



普段、私たちが忘れてしまっている心温まる感性のお話をありがとうございました。

第35回全国介護老人保健施設大会 岐阜

大会テーマ「再び、地域が動く」多様性を包摂する老健のさらなる共進(共鳴・共生進化)を」

【表彰式】

開会式に続き、表彰式が執り行われました。



令和6年度公益社団法人全国老人保健施設協会表彰(個人表彰)を受賞された介護老人保健施設 アルボース 今井 奈津子 様

【シンポジウム】



シンポジウム「高稼働率に向けた取り組み」にシンポジストとしてご参加された介護老人保健施設 大誠苑 事務長 原 隆祥 様

【演題発表座長】

座長派遣要請を受け、2名様に座長をお願いしました。お忙しい中、ありがとうございました。



介護老人保健施設 アルボース 大塚 彰太 様



介護老人保健施設 かがやき 阪下 潤一 様

【演題発表】

写真は、演題発表をされた皆様です。(演題発表後に撮影)



介護老人保健施設 けやき苑 服部徳昭理事長と職員様



群馬老人保健センター 陽光苑 職員様



介護老人保健施設 大誠苑 職員様



介護老人保健施設 藤岡みどりの園 職員様

【会場】



写真手前の向かって右側の建物がメイン会場となった長良川国際会議場。その左側が都ホテル岐阜長良川。写真左奥の2つのドームが岐阜メモリアルセンター。



ROKENくん

第



介護老人保健施設 アルボース 職員様



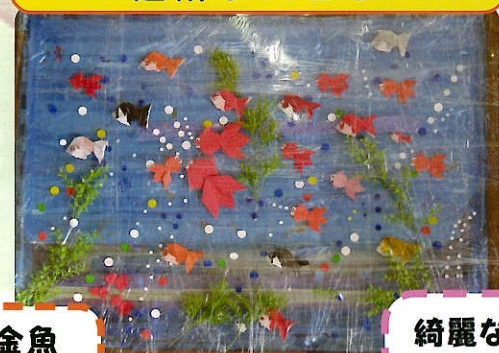
介護老人保健施設 青梨子荘 職員様



介護老人保健施設 創春館 職員様

介護老人保健施設 すみれの里

通所リハビリ



金魚

綺麗な作品ができました♪
皆様、細部まで
こだわってくれました。

認知症専門棟



コスモスとトンボ



富岡製糸場



七夕の願い

介護老人保健施設 旭ヶ丘

入所デイサービス



可愛く鮮やかにできました!

綺麗な
作品ですね

入所1階

幸福、願い事を込
めながら作成した
「ポンポンリース」



入所2階

鮮やかに花開く
「毛糸の花束」



革細工製作



みんなで作成した
キーホルダー



旭ヶ丘リハビリ

二之沢パナケア 介護老人保健施設



いろいろな色の毛糸を
使用して、花を編みました。
それを画用紙に貼り、
お花畑を作りました。
よ〜く見ると、
苺もあり

作業中



これは、
タワシです!



皆さん、
元気玉です!



介護老人保健施設 うららく



秋まつりの山車

誕生日プレゼントのマスコット



毎年秋祭りには
山車を作ってお囃子を
しながら巡ります。
昨年は「めがね橋」、今年は
「大谷翔平」イメージで
つくりました。

リハビリ用お手玉を新調
していただきました。

年に1回、施設内作品展
を開催しています。

施設内作品展



もみじの手ならぬ
手のもみじ



介護老人保健施設 リハビリホーム喜望峰



季節季節の
作品が、ホールを
彩っています



介護老人保健施設 せせらぎ苑

入所



折り鶴を張り合わせて
リースを作りました。

通所



折り紙で作った花とちぎり絵で
壁画を作りました。



ペットボトルホルダー
とネックマフラー
グラデーション
マフラーで
おしゃれ主役級

介護老人保健施設 ミドルホーム富岡



通所リハビリテーション



介護老人保健施設 和光園



本物みたい!

集団・個別で
様々な作品作り
に取り組んでいます



きれいに
塗れたわ





施設の「ここに注目!!!」コーナー

介護老人保健施設 虹の郷すわ

リハビリを広い生活圏に届けよう

事務副主任 武藤 仁哉

虹の郷すわは入所定員100名（一般棟50名、専門棟50名、ショートステイ含む）と通所リハビリ35名、居宅介護支援事業所で構成されています。施設は「鶴舞う形の群馬県」のくちばしに位置し、栃木県・埼玉県・茨城県と4県の境に近い場所となります。そのため相談は限られた地域ではなく県をまたいで、生活圏でとらえたお問い合わせが特徴的です。

当施設の特徴として、リハビリスタッフ総勢14名が様々なアプローチでリハビリを提供しています。また入所も通所もリハビリが生活の励みになるように、様々なプログラムを職員一同提供しています。例えば広い土地を活かして、外で炭火やきいも、2階まで吹き抜けの窓から見える七夕やイルミネーションをはじめとした、四季折々の自然の姿が施設で楽しめます。こういった「広く、多くの方に利用していただきリハビリに親しんでもらう」「その上で、地域で元気に暮らしてもらう」ことを目標に取り組んでいます。

一般にリハビリは「身体が動かなくなってきたらやる」、入所は「自宅生活が難しくなったら利用する」という話題を耳にします。私たちは、よりリハビリを身近なものと感じてもらえるよう発信し、暮らしの中で予防の観点とリハビリの楽しさを広く伝えていけるように今後も取り組んで参ります。



介護老人保健施設 あけぼの苑高崎

いつもの暮らし 大切にしたい

介護事務主任 小泉 美佳

あけぼの苑高崎は、利用者さんが後遺症を持って、利用者さんのいつもの暮らしを継続できるように、その生活を大切にしたいと思っています。利用者さんは、室内での生活が多いですが、自然との接触や太陽の光を全身で受けとめられ、季節の風を感じられる機会を提供したいとの思いから、2022年に敷地内の畑と呼ばれていた雑草地を職員がコツコツとDIYでガーデン作り着手。2024年ようやくガーデンらしくなり、NHKの趣味の園芸の月刊誌に掲載され、利用者さん、ご家族、職員、地域の方々が集えるガーデンになりました。

名称は、BONOガーデンズ。秋にはガーデンでの面会も週3日で開催し、花や自然を楽しみながら、秋の空気や日差しを浴びて、ご家族、利用者さんの会話や絆も深まる集いの場となっております。屋外面会であるため感染予防にも大きく貢献しており、長い時間、会話を楽しんでいます。

花を楽しむだけではなく、春はイチゴ、夏はスイカ、秋は青パパイヤの収穫が出来るガーデンとして、新入職員歓迎会の会場として、利用者さんはもとより、ご家族、地域住民、職員も楽しんでおり、ガーデンが、利用者さんのいつもの暮らしを大切に守っています。



介護老人保健施設 創春館

食で元気に！みんなとつながろう！

施設介護支援専門員 小川 裕之

創春館は前橋市の北部に位置しており、赤城山や榛名山の四季折々の姿が近くで望めます。

そんな当施設では毎月、季節の風物詩に合わせた料理を利用者様と施設職員と一緒に調理し、おやつで召し上がっていただくイベントを開催しています。日頃のリハビリではADLの維持・向上が主な目的になりますが、当施設のイベントはIADLを改善し日常生活に張りを生むことも目的としています。

料理作りの過程では、利用者様の咀嚼・嚥下機能にあわせて食材を柔らかくしたり細かく刻むなどの作業もありますが、みなさん積極的に参加されています。イベント中は、季節の食材の香り・食材を煮込む音・食材の温度などを感じながら料理を作り上げ、みんなで一緒に食べることで五感が大いに刺激されるため、笑顔も普段に比べて多く見られます。また、協同作業を行う中で利用者様同士や利用者様と職員間のコミュニケーションも自然と活発になり、人と人のつながりが強くなっていると感じられます。

感染症が流行する時期もありますが、メリハリのある予防対策を講じながら、これからも日常生活の中で欠かせない「食」において人と人とのつながりを感じ元気になるためのイベント企画に取り組んでいきたいと思っています。



介護老人保健施設 ふじあく光荘

VRリハビリで地域を元気に！

作業療法士 森田 章

ふじあく光荘は、入所定員65名（一般棟49名、ユニット棟16名、ショートステイ含む）と通所リハビリ定員35名、訪問リハビリ、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを運営しています。入所は「超強化型」を算定しており在宅復帰や地域貢献に力を入れています。

ふじあく光荘では令和5年3月より、介護老人保健施設としては全国初となるリハビリ医療機器VRカグラを導入しました。VRカグラは座って専用のゴーグルとコントローラーを用いて、VR空間上に現れる的に向かって手を伸ばすというシンプルな方法で、歩行能力・手の動き・バランス・認知機能など様々な機能のリハビリが可能です。

操作は簡単で、コントローラーで的にタッチすると画面上にお見事！（視覚）、ピコン！（聴覚）、ブルブル！（触覚）と的に当たった事が感覚刺激によって伝わってきます。そのフィードバックにより正確な運動が出来たということが強化され脳に入力されます。この運動学習が効果的で、正しい運動が行いやすくなるようです。ご利用者様からは、歩くのが楽になった、体が動かしやすくなったなどの感想が聞かれています。

ふじあく光荘では、VRカグラと従来のリハビリを組み合わせるリハビリを行っています。多くのご利用者様にVRカグラを使用いただき、地域の中で活用して頂けるよう取り組んでいます。



これ知ってました？

前回の第44号では「認知症とは」「脳の機能」「4大認知症」についてお話しさせていただきました。

今回は「認知機能障害（中核症状）」についてお話しさせていただきます。

介護老人保健施設 和光園 副施設長
認知症看護認定看護師 狩野 京子 先生



認知機能障害（中核症状）とは

認知症の原因である疾患によって脳の認知機能が障害された「認知機能障害」のために生じる症状をいいます。

記憶障害 判断力低下 見当識障害
言語障害 実行機能障害 など



記憶障害

- ・新しいことを記憶できなくなり、進行すると記憶の保持や思い出すことも難しくなる
- ・「いつ・どこで・何をした」という経験や出来事の記憶が障害される
- ・体で覚える運動技術や、反復によって意識しなくても習熟する認知技能（手続き記憶）は障害されにくい
- ・最近のこと（短期記憶）から障害される



見当識障害

- ・時間、場所、周囲の人や状況について正しく認識する機能を見当識という
- ・見当識障害が起こると「いつ・どこで・誰が」が把握できなくなる

実行機能障害

- ・先を見越しながら手順を踏んで何かを達成する機能を実行機能という
- ・実行機能障害では、行動するために必要な手順や段取りが分からなくなる（料理が作れなくなる等）



認知機能障害をもつ方にはどのような声かけや援助をしたら良いか、一例をご紹介します。

認知機能障害に対するケアの一例

記憶障害に対するケア

- ・否定をせずに傾聴し、繰り返し説明をする
- ・視覚的・聴覚的な情報を活用する

- 大切な物は置き場所を決める
- 失くしやすい物には音の鳴る物をつける
- メモやホワイトボードを利用する



見当識障害に対するケア

- ・会話の中でさりげなく場所や時間の情報を伝える
- ・見当識の手がかりとなるものを設置する



実行機能障害に対するケア

- ・こまめに声をかけ、次の動作を促す
- ・一度にたくさんのことを伝えず、一つずつ細かく伝える
- ・できない部分を見極め、さりげなく支援する



認知機能障害といっても、人によって困難なことは異なります。また、少しの手助けがあればできることも多くあります。

本人の不安な気持ちに寄り添いながら、何ができるのか、何が困難なのかを見極め、必要なことをサポートしていきましょう。



介護職員の指導者としての心得

介護現場における指導者としての心得をまとめました。プレイングマネージャーとしての役割が多いからこそ、指導者としてのあり方を見直してみてください。

【指導者としての基本姿勢】

介護の現場で指導者となる者は、単に知識や技術を教えるだけでなく、介護の本質的な価値を伝える重要な役割を担っています。指導者は常に謙虚な姿勢を保ち、自身も学び続ける姿勢を示すことが大切です。威圧的な態度は避け、相手の立場に立つて考え、受容的な態度で指導に当たることが心掛けましょう。

【専門職としての自覚と責任】

指導者は介護のプロフェッショナルとして、確かな知識と技術を持ち合わせていることが求められます。最新の介護技術や制度改正などの情報収集を怠らず、自己研鑽に励むことが必要です。また、指導者自身が介護職としての誇りを持ち、利用者本位のケアを実践する模範を示すことで、若手職員の目標となることができま

【個々の特性を理解した指導】

スタッフには、それぞれ異なる経験、性格、学習スタイルがあります。画一的な指導ではなく、個々の特性を理解し、その人に合った指導方法を選択することが重要です。特に新人職員に対しては、不安や戸惑いに配慮し、段階的な指導を心がけましょう。また、経験者に対しては、これまでの経験を活かしながら、さらなる成長を促す関わりが必要です。

【効果的なコミュニケーション】

指導の基本は、効果的なコミュニケーションです。指導者は、明確でわかりやすい説明を心がけ、相手の理解度を確認しながら指導を進めます。また、積極的な傾聴の姿勢を持ち、スタッフの意見や提案に耳を傾けることで、双方のコミュニケーションを実現します。承認すべき点は具体的に承認し、改善が必要な点は建設的な助言を行うようにしましょう。承認のポイントは、存在・意思・行動・プロセス。結果についてタイミングを逃さず承認しましょう。

【チーム全体の成長を促す姿勢】

介護は、チームで行う仕事です。指導者は、個々のスタッフの指導だけでなく、チーム全体の成長を意識した関わりが必要です。スタッフ間の良好な関係づくりを促進し、互いに学び合える環境を整えることが重要です。また、多職

種連携の重要性を理解し、他職種との効果的な協働を実践できるよう導きます。

【メンタルヘルスへの配慮】

介護の仕事は、身体的にも精神的にも負担が大きい職種です。指導者は、スタッフのメンタルヘルスに常に気を配り、必要に応じて適切なサポートを提供する必要があります。特に、困難事例への対応や看取りケアなどの場面では、スタッフの心理的負担に配慮し、適切なフォローを行うことが重要です。

【公平性と一貫性の保持】

指導者は、すべてのスタッフに対して公平な態度で接することが求められます。えこひいきや感情的な対応は、職場の雰囲気悪化させる原因となります。また、指導内容に一貫性を持たせることで、スタッフの混乱を防ぎ、安定した成長を支援することができま

【記録と評価の重要性】

指導内容や進捗状況を適切に記録し、定期的な評価を行うことは、効果的な指導に不可欠です。客観的な評価基準を設定し、スタッフの成長過程を可視化することで、より効果的な指導計画を立てることができま

【リスクマネジメントの意識】

介護現場では、様々なリスクが存在します。指導者は、リスクマネジメントの視点を持ち、安全で質の高いケアを提供するための指導を行う必要があります。ヒヤリ・ハット事例の共有や、事故防止のための具体的な対策指導など、実践的な安全教育を実施することが重要です。

これらの心得を常に意識しながら指導にあたることで、スタッフの成長を効果的に支援し、質の高い介護サービスの提供につながるができます。また、指導者自身も常に学び続ける姿勢を持ち、指導スキルの向上に努めることが、より良い指導の実現につながります。

医療法人大誠会

介護老人保健施設 大誠苑

統括介護部長

黒木勝紀

施設の「空床情報」等、協会HPに掲載しています。是非ご覧ください。

<https://www.gunma-roken.jp/>



協会・事務局コーナー

■協会行事予定（令和7年度）

5月

14日(水) 代表委員会(オンライン)
28日(水) 通常理事会

6月

18日(水) 臨時理事会
18日(水) 定時総会

8月

協会だより「ひろば(Vol.46)」発行予定

9月

老健ぐんま(Vol.28)発行予定

10月

15日(水) 代表委員会(オンライン)

11月

15日(土) 群馬県老人保健施設大会
19日(水) 通常理事会
27日(木)・28日(金) 全老健山口大会

令和8年 2月

18日(水) 代表委員会(オンライン)
25日(水) 臨時理事会

令和8年 3月

18日(水) 臨時理事会
18日(水) 臨時総会

あとがき

H S N T

今号で編集委員最後の担当となります。8年間務めさせて頂きました。お世話になりました。寒暖差が激しいため、体調管理には十分気を付けましょう。まだまだ寒い日が続きますが、風邪を引かないように頑張ってください。今後新しく編集委員として勤めさせていただきます。よろしくお願いします。